

Economic Indicators

発表日: 2020年5月12日(火)

景気動向指数(2020年3月)

～前月差▲4.9ポイントの急低下。先行きは悪化ペースがさらに加速～

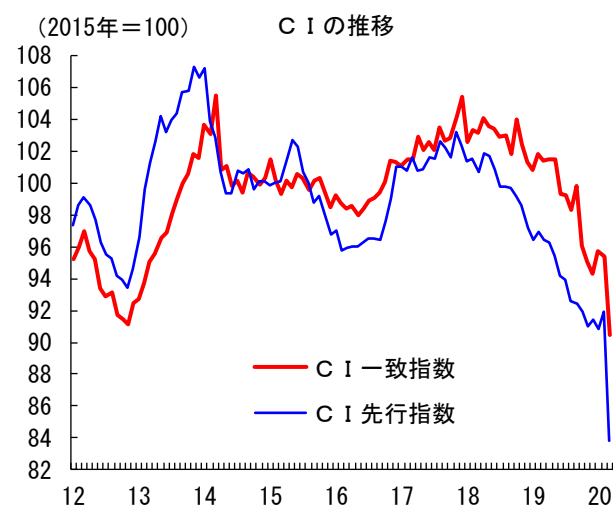
第一生命経済研究所 調査研究本部

経済調査部長・首席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)

先行きはさらに悪化が加速

内閣府から公表された2020年3月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差▲4.9ポイントと大幅に低下した。単月の悪化幅は14年4月(▲4.7ポイント)や19年10月(▲3.7ポイント)を上回り、東日本大震災のあった11年3月(▲6.3ポイント)以来の落ち込みとなっている。3月は速報段階で反映されるすべての系列で悪化がみられた。こうした落ち込みを受け、内閣府による基調判断も「悪化」が維持されている。

先行きの景気については、さらなる落ち込みが不可避だ。3月の低下幅は非常に大きいものとなったが、4月の低下幅はそれをさらに上回るだろう。東日本大震災の11年3月(前月差▲6.3ポイント)やリーマンショック時の09年1月(前月差▲6.4ポイント)以上の悪化になってもおかしくない。緊急事態宣言発令後、外出手控えの動きが一段と強まったほか、営業自粛等も進んでいることから、サービス消費を中心として国内需要は大幅に落ち込んだとみられる。さらに、欧米を中心として厳しい外出規制や工場の操業停止等が実施されていることで、日本からの輸出も今後は大幅減少が不可避の情勢である。内外需ともに厳しさが増すことが予想され、景気は急激に悪化する可能性が高い。筆者は1-3月期の実質GDP成長率が前期比年率▲4.6%のマイナス成長になったと予想しているが、4-6月期はさらに悪化ペースが加速し、前期比年率▲20%以上の落ち込みになるとみている。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

